
俺と魔導と錬金術と百合と薔薇

三度の飯より甘いもの

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と魔導と錬金術と百合と薔薇

【Nコード】

N7558X

【作者名】

三度の飯より甘いもの

【あらすじ】

間違いで殺されたとかではなく、因果律が狂ったことにより助かる命を落としてしまった主人公。主人公は異世界に行くことを望み転生を果たした。彼はどんな道を紡ぐのか……。とりあえず、更新は不定期です。

ぶろろーぐ？（前書き）

やっちゃった……。。

他の作品を書き終えてないのに新しいの書き始めちゃった。

とりあえず、どうぞ！

ぶるるーぐ？

えつと・・・

初めまして・・・

この物語？の主人公？の美羽です。

俺は今凄い瞬間に立ち会っています。

・・・

なんと、神様が目の前にいるんです。

えつ？

あの！手にしている物をおろして下さい！

あっヤメテ！どこかわからないけど掛けないで！

別に頭のネジが飛んでる人じゃないでうから！

あっ・・・噛んじゃったじゃないですか・・・。

ちよつ、そんなほのぼのした空気はヤメテ！

地味にイタイから！

うっ・・・ううん・・・と、とりあえず話を戻します。

えつと、今日の前で中年のなんか光ってるオツちゃん（神様）と

どす黒い光？というか闇を出している綺麗なお姉さん（女神？）が・

・・・

あのシューティングGAMEもなんのそのといった弾幕の応酬を繰

り広げているんですよ。

なんか、目が覚めると少し離れたところで手から火炎放射してる人とそれを必死に手に持った何かで防いでて、こっちが気付いたことに気付くと「すぐ終わるから待って！」と言って「避けるな！あんたそれでも神かぁー！ー！！」と叫んでいた。

それで、とりあえず・・・目の前の非常識な人たちを神様と思いませんでした。

えっ？

何故そんなとこに居るかって？

うーんと、説明すると・・・死んだから？

とりあえず話を聞こうにも目の前の花火のような光景が終わるまで無理ですね。

そんなこんなで弾幕の応酬が終了。

女神？さんの勝ちです。

長かったです。

めっちゃイイ笑顔でこっちに近づいてきます。

「いやいやー、ごめんねえー待たせちゃってー」

「えっと・・・別にいいですよ・・・」

だが、彼女の・・・後ろにある黒い物体について聞きたいけど怖い。

「それで・・・なんであなたがここにいるか聞きたい？」

「ええ、出来ればお願いします。」

「わかったわ！それじゃ説明するわね。」

「はい。」

「とりあえず・・・」

あなたの名前は満田美羽、18歳、男性、死亡時刻：18歳7カ月12日5時間42分29秒、
死亡理由：後ろから女性に襲われ刺されてそのまま失血死・・・で
構わないわね。」

「ええっ・・・とりあえずは。」

一瞬ストーカーかと思ったが、女神？さんの眼が泣きそうになったので思うのをやめた。

「そっ、それはよかった。

ここからが本題ね。」

「はっはい！」

「実はあなたは死ぬはずじゃなかったのよね。」

「はい？」

「本当ならあなたが刺されてすぐにあなたの妹さんが駆けつけてあなたは助かる予定だったのよ。」

「はぁ……」

「それがうちの馬鹿があなたの妹さんを間違えて殺しちゃったのよ。」

「はっ？もうとを……？」

「あつ、大丈夫大丈夫！苦しんでなんかないし、それに色々な特典付けて生き返らせたから。もちろんあなたが生きていた世界よ？」

「……妹がそれでよかったなら構いません。」

「それで……あなたなんだけど……妹さんみたいに生き返らせることが無理なのよ。」

「えっ？何ですか？」

「妹さんは神による殺害で、あなたは普通に殺されたからよ。」

「俺は……どうなるんですか？」

「あつああ、そうなのか・・・君にはすまないことをした。」

怖っ!?!なに?あの手刀?完全に今、首折れてたよね?
すぐに戻ったけど・・・。

「べつ別にかまいませんよ・・・妹が無事ならば・・・」

「うづう(泣き)君はなんて家族思いなんだ!」

「そうねえ・・・可愛いわよね・・・」

えっ・・・いや・・・ただ妹が許したんならいいかって、思った
から言っただけなんだけど・・・。

「よし!君には最大7個までの願いを聞こう!」

うん、まあ聞いて貰えるんなら聞いて貰おうかな?

「じゃあ、一つ目:俺の家族に幸せを、

二つ目:俺の友達とかにささやかな幸せを、

三つ目:転生する世界は魔法とか錬金術とかがある世界で、

四つ目:転生するとき性別を女で、

五つ目:魔法と錬金術の知識をその世界のすべて、

六つ目:自分のステータスを確認できるように、

七つ目:今のままの記憶と人格を保ったまま転生したい。」

「・・・いいだろう、だが、最初の二つは言わなくてもするぞ?」

「そうよ、あなたが生きる上で必要だった運の全てはあなたの周りに重要度の差はあれど流れていくんだから。」

「そういうことだ。」

「はぁ・・・」

「まだ、二つあるわよ?」

「正直もういいです。」

欲しいものなんてもう無いしなぁ・・・。

「えっ・・・いいの?ほんとにいいの?」

「謙虚だな。」

「ええ・・・正直もう貰いすぎのような気がして・・・
そっだ、なら二つは任せます。」

「そう・・・なら、転生してからの楽しみね」

「いいのか?いいのなら転生させるが?」

「ええ、構いません。色々ありがとうございました。」

「いいのよ・・・悪いのはこいつなんだから。」

「そのことは本当にすまなかった。次からこのような事がないように気を付ける。」

「はい、そうしてください。」

「それでは送る。」

「またね」

なんか身体が満たされていくと言っか、大気に溶けていくと言っか、よくわからない感覚が俺を包んだ。

そして、だんだん、こう眠くなってきた。

見えるのは申し訳なさそうな神様と優しい笑みを向けてくる女神さまの顔。

あっ・・・名前聞くの忘れた。

また、会えるかな？

とりあえず、最後に言うのは・・・

「ありがとうございます・・・」

ちゃんと笑えて言えたかな？

目が見えなくなっって、感覚が薄くなっって、どこかに吸い込まれるようなそんな感じ。

ああ、出来れば幸せな人生になるといいな。

ぶろろーぐ？（後書き）

感想待ってます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7558x/>

俺と魔導と錬金術と百合と薔薇

2011年10月20日08時20分発行